

子どもと遊べる大人はカッコイイ!!

子どもと遊べる大人はビー・リスペクテッド
(Let's play with your kids and be respected.)



大人が子どもと遊ぶ姿は昭和の時代には見かけられました。近所のお兄さんお姉さんやおじさんがいて、お菓子を振る舞ってくれたり、一緒に工作に誘ってくれたりしてくれました。周りからはちょっと変わった物好きな人として映っていました。

今はそんな人はめったに見かけなくなりました。でも、「富山・イタズラ村・子ども遊ばせ隊」隊長の早川たかしの周りにはどういうわけか子どもと遊べるカッコイイ大人がいっぱいいます。今、コロナウイルスで社会に「不安」が満ちています。そんな時だからこそ、私は子どもたちを遊ぶことで心をわくわくさせる、大人たちの存在が必要だと思うのです。

そんな大人たちをご紹介します。(順不同)

- | | |
|---------------|-------|
| ● 木登り名人 | 高野大輔 |
| ● 遊べる高校教師 | 市原千晶 |
| ● たかおか忍者 | 八田一弥 |
| ● 自称スーパーパパ | 山田拓佳 |
| ● けん玉かあさん | 加藤瑞樹 |
| ● ディアボロ名人パパ | 浅井英明 |
| ● けん玉(元)校長 | 寺西康雄 |
| ● 紙芝居師・高校教師 | 飯田良智 |
| ● 遊ぶ大学教員 | 粟原知美 |
| ● 遊びの仕掛け人・保育士 | 清水たかし |
| ● 北海道在住弟子・保育士 | 宮武大和 |

なぜ、そんな風に思うのでしょうか。

私は富山県八尾町の山里で、廃屋を改修し、子どもが思いっきり自由に遊べることができる「子どもイタズラ村・遊酔亭」（1983年～）を開設してきました。（※1『子どもイタズラ村作り』教育史料出版会）

学んだことは、スタッフ（大学生～社会人）として参加した「大人」が子どもと「一緒に遊ぶ」ことの意味でした。

スタッフは「遊んであげる」のではなく、「本気」で子どものように「遊び」ました。すると、子どもたちはスタッフの膝の上に乗って、甘えながら家や学校での喜びや悩みや寂しさを語り始めるのでした。また、大自然が背景にありましたが、子どもたちは「遊酔亭」の周りで群れてじゃれ付き合っただけで遊ぶことの方を好んでいました。

このような実践の中から分かったことは、「一緒に遊ぶ」大人を「カッコイイ！」と憧れをもって見ているということでした。その憧れは、「信頼感」や「尊敬」の念に変わっていくということです。

私は69歳になった今も、保育園や幼稚園で「遊びの授業」（90分）（※2）と称して、子どもと遊ぶ時間を過ごしています。

遊びに参加せず落ち着きのなかった子どもが、最後の絵本の読み聞かせ（『もこもこもこ』谷川俊太郎作）になると、目の前で（「かぶりつき」）聴いています。

小学校の支援級へ遊びに行ったときのこと。「皿回しなんか、バカバカしくてやっとなんか！」と教室から出て行った子が、10分後に「申し訳ありませんでした。」と戻ってきて、一緒に遊びました。終わると「弟子にしてください」と私を尊敬の眼でお願いしてきました。

もう一つ、大切な意味を忘れてはいけません。「大人が子どもと遊ぶ」ことで、大人自身が抱える「苦悩」や「心の症状」を癒やし、レジリエンスへと導くということです。

「遊べる大人」への「はじめの一步」は「皿回し」です。